

カラーピーマン（パプリカ含む）促成

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
促成												
主な作業						収 穫 終 り	播 種	定 植			収 穫 開 始	

技術体系

1 作型の特徴

高温長日期に播種を行う。生育初期は高温により、生育も早い。生育中期になると低温短日期になり、生育も鈍化する。また、果実の成熟にも時間を要するため、実り疲れ症状を示しやすい。生育後期は外気温の上昇に従い、生育及び収穫は旺盛となる。長期栽培となるため、季節に応じた管理により、草勢の維持に努めながら、収穫量を確保することが必要である。

2 適応地域

平坦地域

3 栽培条件

(1) 温度

発芽適温は 30～35℃、高温を好む作物で、生育適温は 25～30℃、15℃以下ではほとんど生育しない。地温も 16～17℃以上が根の活動には必要となる。

(2) 光

光飽和点は 3 万ルクスである。日照時間が長く、温度を高く保つと生育が良好となる。

(3) 土壌条件

土壌適応性は広いが、適度の水分を要求する。

4 施設装備

- (1) 連棟型ハウス
- (2) 暖房機
- (3) 二重カーテン
- (4) 灌水施設

5 経営目標

- (1) 収量 8t/10a
- (2) 投下労働時間 1,050 時間/10a
- (3) 所得率 35 %
- (4) 経営規模 40 a
(家族労働力 2 人の場合)

栽培技術

1 品種と特性

赤色

ワンダーベル
ソニアレッド
スペシャル、ワプラ
パプリレッド
彩レッド
ガーネット など

黄色

ゴールデンベル
ソニアゴールド コンフェンティ、フェアウェイ
パプリゴールド

彩イエロー
オロベル など

その他オレンジ系、ホワイト系、パープル系など各品種により、高温、低温耐性や草勢、収量などが異なるので、地域に合った品種を用いること。

2 育苗

(1) 育苗ハウス

播種箱（45 cm×36 cm）20 枚/10a、鉢上床は 160 m²用意する。高温になりすぎないように、寒冷紗などの遮光資材を用意する。ウイルス病の予防のため、媒介する害虫の進入を防ぐためサイド部に防虫ネットを張る処置を行う。

(2) 播種

条間 6 cm、種子間隔 1 cm で、すじ播きにする。覆土は 5mm 程度、充分灌水した後、ぬれ新聞紙をかける。

(3) 接ぎ木及び鉢上げ

疫病、TMV 防除のためと、根張りを良くし、草勢の維持を図る上で接ぎ木を行う場合もある。

本葉 0.5 ～ 1 葉期に、12 cm ポリポットに鉢上げする。

3 本圃準備

暗きよ排水やハウスの回りの明きよ設置など、排水対策を実施しておく。

(1) 施肥

施肥量	(kg/10a)		
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基 肥	1 2	2 0	1 0
追 肥	3 5	4 0	2 0
合 計	5 0	6 0	5 0

堆きゅう肥は 2 t を目安とし、土壌の状態、堆きゅう肥の品質を考慮して施用する。また、休耕期間中に緑肥作物を栽培し、土壌にすき込む等、地力の持、増進を図る。

施肥は、利用効率を良くするため、基肥は植穴施用や溝施用など、根圏局所に行う。肥料の種類は、

有機質肥料を主体として使用する。また、土壌診断に基づき石灰等の改良資材の投入を行い、基肥は定植 10 日以上前に施用する。

(2) 栽植様式

畦幅 150 cm、株間 60 cm、1 条植 約 1,100 株/10a とする。20 ～ 30 cm の高さの畦をつくり、通路幅を 60 cm 程度とする。

4 定植

播種後 40 日前後、一番花開花直前に定植する。定植時には、畦全体を湿らせておく。

5 温度管理

基本的に、昼温は 30℃、夜温は 18 ～ 20℃とする。温度は高い程生育が早くなるため、12 月から低温期には、二重カーテンなどを利用し、保温に心がける。

6 整枝

主枝は本仕立てとし、畦方向に誘引する。誘引ひもを用い、つり上げるが、枝が折れやすいため、無理な誘引を避けるようにする。1 主枝に 3 果以上連続して着果させると、生理落花が起こりやすいため、果形の悪い果実は早めに摘果し、ならせすぎに注意する。

7 灌水・追肥

活着したら収穫期まで灌水は控え気味にし、発根を促す。以後は pF2.0 を目安とし少量多灌水に心がける。

8 病害虫

ウイルス病に罹りやすいため、アブラムシ等の防除を徹底する。また、症状のでた株は早めに除去し、伝染を防ぐ。アザミウマ類、ホコリダニの発生にも注意する。

9 収穫

適期を過ぎると、果実にひび割れのような症状を呈するので、完全に着色した果実を敵期収穫する。